

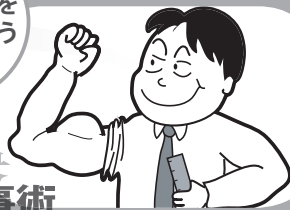
第一章

自分の能力評価

自分の能力を
わかってもらう

ナルホド

爽快
仕事術



1 自分の能力の分析

自分に向いている 仕事をさせてもらう

いろいろな仕事をして行く中で、自分の能力がどのくらいあるのか、どのような仕事が得意で、どの類の仕事は向いていないかを認識して行こう。誰でも得手と不得手がある。仕事は何でもかんでもできなくてはいけないということはない。自分の向いている仕事なら楽しくてストレスもかからない。そのような仕事をさせてもらうためには、まず自分の能力を分析して、その能力を上司に理解してもらうことが最善策だ。

ただし、具体的な仕事に絞ってこの仕事はできます、あれはできませんということではない。自分にはどういう種類の仕事に向いているのかということを確認しよう。

自分に 向いている仕事

自分の能力を見極めるといってもどうしてよいかかわからないかもしれない。たとえばほかの社員と比較して、自分の方がうまくやれるから優れているとか、みんなに褒められるからその仕事に向いているというように考えがちだが、それは相対的な評価であって、自分自身の本当の能力の評価になっていない。

仕事の向き不向きを示すバロメータは次の4つである。何らかの仕事をするたびに、この条件に当てはめてみて、4つとも○ならば、その仕事はかなり向いているといえる。

自己評価の第一歩として、この簡単な方法で、

自分の適性を分析してみるといい。

(1) その仕事を頼まれたときに、「具体的な方法がイメージできる」か

仕事を依頼されたときに、仕事を完遂するまでの具体的な手順と最終形がイメージできれば、自分の能力の範囲の仕事であると言える。自分ひとりの力でできない部分があっても誰に頼めばよいか知っていれば最終形をイメージできる。

(2) その仕事をしているときに楽しくて、「長続きする」と感じるか

長続きする仕事や、短い時間に感じる仕事は、本人にとって楽しい仕事である。苦しい仕事や理解できない勉強は長い時間に感じる。

(3) その仕事は、「手際よく片付けられる」と感じるか

手際よく片付けることができるのは、自分の経験やスキルがそのまま発揮できる仕事である。

(4) その仕事を完了したときに、「間違いが少ない」と、感じるか

間違わない自信のある仕事は、仕事の性質を熟知しているものである。どこに注意を払えばよいか理解しているので間違いが少ないと感じることができる。

得意な仕事に 共通するものを探す

能力を見極める条件を意識しながらいろいろな仕事をしていると、この仕事は自分に向いているが、あれは得意ではないということがわかってくる。そこで次の段階では、得意な仕事に共通するものを見つけることである。